

## 岩槻新校基本計画検討委員会（第2回） 議事録

1 日 時 令和5年5月12日（金） 午後3時30分開会  
午後4時50分終了

2 会 場 県立岩槻高等学校会議室

3 出席委員 栗藤委員長、持田（貴）副委員長、前島副委員長、伊藤委員、鷺田委員、藤原委員、中村委員、渡辺委員、持田（真）委員、池田委員、赤池委員、山谷委員、落合（真）委員、落合（範）委員、秋山委員、中澤委員、山下委員、小林委員、長谷委員、市川委員

4 事務局 魅力ある高校づくり課 中島、坂本、高辻、橋本

5 協 議 「岩槻新校基本計画骨子（案）」について

栗藤委員長 協議に入ります。前回の委員会では、両校において作成いただいた新校基本計画検討案に対して、様々な御意見を伺ったところです。後ほど、参考資料3の新校基本計画検討委員会議事録、また参考資料4の新校準備委員会議事録をお目通しいただければと思います。今回は事務局にて、両校で検討した案を踏まえ、検討し作成した骨子案を本日の協議の主たる内容としていきたいと思っております。それでは、「資料1 岩槻新校基本計画骨子（案）」の説明を事務局からお願いします。

事務局 （岩槻新校基本計画骨子（案）のうち課程・学科等、学校規模について説明）

栗藤委員長 はい。今回の案は非常に長くなりますので、少しずつパートを分けて、進めていきたいと思っております。最初の課程と学科名、学校規模について説明がありましたが、こちらについて御質問等ありましたらお願いします。御意見でも結構です。

渡辺委員 岩槻高校の渡辺です。以前は岩槻北陵高校でもお世話になっていました。学科名と目指す学校について、疑問に思ったことを御質問したいと思っております。まず1点ですが、目指す学校を踏まえて学科名案を考えたとのこと、ごもっともなことですが、これだと目指す学科像、つまり学校像というのは学科も含めた全体の学校像であって、国際に関する学科のみに探究が入ってくると、誤解が生じるかなと思っております。つまり、生徒たちも普通科は今までの普通科のままで良いのだと、探究というのが国際だけに入っているから国際に関する学科だけが探究をすれば良いのかと、ちょっと誤解が生じるかなと懸念されると思いました。ずっとここでやっている教員とか卒業生からすれば、出来れば学科名は変えたくないというのが本音ですが、県教委の色々なお考えもありますし、新しい学校に向けて、いろいろなコンセプトを含めた新しい流れを作りたいという御考えも十分理解できます。そこで、少し考えてみたのですが、国際探究科という言葉について、私は国語の教員ですが、

探究という言葉には目的語が入り、何々を探究するとなります。新教育課程における古典探究や英語探究などは、特定の科目ですので、例えば、歴史を探究するとか文化を探究するといったものがありますが、国際というのが頭に付くと、国際的な何々といった意味で国際が頭に付きます。例えば、国際的なスポーツフェスティバルとか国際的ないろいろな文化を学ぶなどです。国際的に探究しようというのは、目的語にならない部分があって、果たして何を探究するのかというのが1つです。それと、先程申しましたように、目指す学校が普通科の方にも探究を入れていくのであれば、国際の方だけに探究を入れるのは、誤解が生じやすいと思います。いくつか例を調べてみたのですが、大学で、国際探究を使っているところはないと。もちろん、新しい言葉を使うことによって新鮮味を出すというのは一つの手ではあるのですが、多くの方々に理解をしていただくには、新しい言葉も必要かもしれませんが、逆に馴染みがあって、あなるほどねと多くの方にすんなりと理解していただける言葉も良いかなと思ひまして、考えさせていただきました。国際教養科という発想はないかなと。こちらですと英語にしたときに、教養というのが Liberal Arts という言葉になり世界中で認められている言葉なので、どこの国に行っても Liberal Arts ねとなります。我々日本人が勘違いしがちなことが、教養というと大学1年生でやる一般教養科目として、要するに幅広く勉強するのだという考え方で日本語では勘違いしてしまうのですが、本来の Liberal Arts はそうではなくて、きちんといろいろなものの違いをクリティカルに研究し、それを探究的に学んでいくというのが根底にあります。いろいろな大学を見ていただくと分かりますが、どこの大学でも探究的な学びに近い言葉がありますので、非常に相応しいかなと。全日制にしても国際の科目にしても、探究を深めていくといったことは変わりません。そして、教養という言葉が、単なる知識を広げるという意味ではなくて、探究的にいろいろな国の文化であるとか風習であるとかを総合的に学んでいくことによって、国際社会で活躍できる人材を育てていけるというイメージです。そして、大学の方からから見ても、非常に理解しやすいというイメージになるかと思ひます。特に早稲田大学などですと、Liberal Studies という表現をしています。今うちの学校でも留学生とやり取りをしています。留学生に文書を出す際には、必ず学科とかを英語で入れています。例えば、国際探究科だとどういった英語表記になるのか、考えてみたのですがうまく出てきませんでした。Research も変だし Investigation もちょっと合わないのかなと。そうしたことで、1つの案なのですが、出来れば探究科より教養科の方が多くの方に浸透しやすいかなと思ひます。

栗藤委員長 ありがとうございます。何か事務局からありますか。

事務局 ありがとうございます。私たちでもいろいろと全国の国際系の名前を調べまして、確かに委員御指摘の通り国際教養科も全国で12校くらい設置している高校があり、国際探究科は3校程しかないのですけれども、そういったところも踏まえさせていただきます。また、確かに普通科には探究をさせないのかというところはなるほどなとこちらもしっかりきたところもございます。英語にしたときに、探究は確かに難しいなというのもごもっともでございます。意見として承りました。

他の委員からもいろいろな意見をいただければと思います。ありがとうございます。  
栗藤委員長 委員会のそもそもの性質は、たくさんの御意見をいただいて、最終的には取りまとめという作業が必要になってくるのですが、そういったやりとりをさせていただく場ですので、いろいろな御意見をいただければと思います。また、新校準備委員会というのをこの後開催することになっておりまして、全く同じ資料を使って外部の学校の関係の皆さんの意見を頂戴することになっています。いろいろな方から御意見をいただきながら、事務局として最終的に取りまとめていきたいと思っております。今、具体的な御提案を含めてお話いただきました。他に御意見ございますでしょうか。

鷺田委員 岩槻高校の鷺田です。私の方も、渡辺委員から提案がありました、国際教養科という名称ですね、こちらにしていただけないかなと感じております。理由につきましては、渡辺委員がおっしゃったように、やはり募集している生徒が見たときに、まずどういったところをこの学校で身に付けられるのかということを考えてときに、探究というところよりは教養の方が相応しいかなと考えました。私も、普通科と国際教養科の方が良いと思います。

栗藤委員長 ありがとうございます。他に御意見があればなのですが、全体で割り振られている時間もありますので、恐らくこの学科や募集学級数、この辺りはいろいろと御意見もあるところではないかと思うので、ここは少しお時間をかけさせていただいて、全体の時間がありますので、後半については少し駆け足になるかもしれませんが、そういう運び方でよろしいでしょうか。ここは委員の皆様からいろいろ御意見をいただきたいなと思います。他にございますか。

持田（真）委員 委員の持田です。中高連携委員と国際文化科の3年担任をさせていただいている観点から申し上げたいと思います。渡辺委員がおっしゃった通り、外国語、英語等にしたときに分かりやすい名前の方が、将来的に中高連携がどうなるか分からないですが、生徒募集の観点からすると嬉しいと思います。外国語を母語する生徒の選抜、外国人特別選抜を今後行うかどうか分かりませんが、それが継続された場合に、幅広く生徒を集めるときに、外国語でも分かりやすいものであると、今もクラスにいますのですが、英語はできる生徒、でも日本語は余りできないという生徒、そういった生徒にも良いなと思ってもらえるのかなと思います。ぱっとすぐに入ってくるものがあるのかなと思います。それから、昨年度、留学生が2名来たのですが、どういう形で本人たちが本校に入ってきたのか、詳しい経緯は分かりませんが、選んだりすることがあるのだとすれば、やはり分かりやすい学科名があれば、選択してもらえるのかなと。そうすると、生徒にとって、留学生が来てくれたりだとか、外国人特別選抜で入ってきてくれる生徒がいたりすると、異文化交流も常になされる状況になるので、本当にプラスになると思うので、できれば分かりやすい、国際教養科も一つだと思いますし、その他のものであったとしても、分かりやすいものが嬉しいなと思います。

栗藤委員長 ありがとうございます。事務局の方から何かありますか。

事務局 先生方お三方、大変貴重な御意見ありがとうございます。大変建設的な御

意見かと思えます。我々も学科をどうしていくのかという、非常にシンボリックなところで、悩みながら今の御名前を付けさせていただいていたところです。そのときには、実施方策をベースに考えさせていただいたのですが、渡辺委員への御意見、英語にしたときの表記ですとか、探究というのは国際に関する学科だけでなくやっていくというのは、おっしゃるとおりだと思います。今この原案で作成させていただいて、この検討委員会や準備委員会を経させていただきたいと思えますが、いただいた御意見についてはきちんと受け止めさせていただいて、しっかり考えていきたいと思っております。準備委員会の場などでも、そういった御意見があったということは触れさせていただきたいと思っております。以上です。

栗藤委員長 事務局の方では、英語による学科の名称という点についてはほとんど意識しないで案を作っています。日本語をまずは第一に考えて、その際には恐らく、学習指導要領であるとかそういったところにあるフレーズを使っていこうというところが一義的にはあったのかなど。探究という学習活動が、現行の学習指導要領の目玉と言いますか中心的な部分なので、そういったところが今は入っているということです。もちろんこの後、検討委員会と次の準備委員会での意見を踏まえ、また検討させていただこうとは思っています。本当に貴重な御意見、ありがとうございます。学科名についてフォーカスしているところですが、内容は盛りだくさんなので、時間のことも多少気にしながら、具体的なこういった学科名はどうだろうかとかそういった御意見もいただいているので、ではひとまず次のところに進めさせていただいてよろしいでしょうか。場合によってはまた学科名に戻ることも当然あるかと思えますが、では次の説明をお願いします。

事務局 (岩槻新校基本計画骨子(案)のうち基本理念(目指す学校、育てたい生徒像)について説明)

栗藤委員長 ちなみに、先ほど渡辺委員から、目指す学校像というフレーズでお話があったのですが、この委員会で検討するのは、目指す学校とにあえてしています。目指す学校像というのは、新しい学校が立ち上がった後で、今の岩槻高校や岩槻北陵高校が持っているような目指す学校像という別のものを作ることになります。それと峻別するために、ここでは、目指す学校という言い回しになっているということで、ご注意いただければと思います。少し余分なことを申し上げましたが、やはりここも大事な学校のコンセプトの部分ですので、少し時間をかけたいと思えます。御意見、御質問等ありましたらお願いいたします。先ほどから御指摘をいただいているように、この目指す学校と育てたい生徒像は、普通科と、今は仮置きですけれども、国際探究科、国際に関する学科トータルでの、この新しい学校での基本理念ということになります。内容的には、若干国際に関する学科の内容に寄せているところがあるかと思えますが、これは普通科にも共通のものというイメージでお願いしたいと思います。では、司会の方から事務局に振ってしましますが、部活動という言葉を使わずに、課外活動としたようですが、この辺りはどのように考えているのか御説明いただけますか。

事務局 ありがとうございます。今、委員長に御指摘いただいたところ、育てたい生

徒像のエの部分にございます。本来の、元々の案ですと、部活動という表現が用いられていましたが、準備委員会等で校長先生等からも御意見がありました。また、昨今の部活動の状況、これからどういう形になっていくのかというところがまだまだ分からない部分もございます。ただ一方で、やはり学校行事、部活動、そういったところにしっかり力を入れていき、生徒たちにより活発な学校生活を生徒に送っていただきたいという思いもありまして、ここでは課外活動という言葉でまとめさせていただきます。以上です。

栗藤委員長 ですので、言葉としては部活も含めた様々な課外活動全般を表現しているということで御理解いただければと思います。他にございますでしょうか。

鷺田委員 育てたい生徒像のイのところに、豊かな国際感覚と語学力を備えということで、特にこの語学力というところが言い回しとして少し引っかかる場所があります。現状ですと、国際文化科の方で、例えば第2外国語といった科目ですね、を用意して履修させてということになるかと思いますが、ここに語学力という言葉を入れておくと、普通科の方でもこれをやるということなのかなと。予算的なものなのか、教員配置的なものなのかその辺りのところというのはどのように想定されているのでしょうか。もともと県の方で何か考えていることはあるのでしょうか。

栗藤委員長 ありがとうございます。事務局の方からいかがでしょうか。

事務局 当然、国際探究科というか、国際教養科、まだ決まっていないところですが、国際科の方を中心とした文言であるのかなと捉えておりますが、当然、普通科の方もですね、語学力を身に付けていただければと思っております。という意味もあって、ここに記載はしております。が、人員配置等までは、想定はしきれていないというのが正直なところ。普通科でも第2外国語入れるまではまだまだ詰め切れていないところもあります。教育課程の方は、令和6年度以降に、最終的には検討していきたいと思っておりますので、そういった御意見をいただければと思っております。また今後、検討できればと思います。

栗藤委員長 続けてどうぞ。

事務局 補足しますと、現状では、今の、例えば岩槻高校の普通科と国際文化科があると思うのですが、その普通科の部分に、更に追加的な人員の措置ですとか、そういったものを確約できる状況には現状ではないかなと思っています。そういう意味では、今をベースにして考えると、書き過ぎなのではないかというような御指摘であると思っております。そういった意味ですと、確かにおっしゃる面があるのかなと思っておりまして、ここの文章をどうするかということは、要検討の箇所になるのかなと思います。以上です。

栗藤委員長 渡辺委員、お願いします。

渡辺委員 例えば、語学力だけではないと思うんですね。私は今、生徒に手話とか教えているのですが、手話も言語の一つにはなりますが、例えば、日本語であっても、コミュニケーションがきちんと取れない生徒もいる。あるいは障害者、聾者に対してのコミュニケーションが取れない、でもいろいろなチャンネルを使って、例えば福祉関係の部活の中で、手話を勉強したりとか、あらゆる意味でも語学力に絞らな

いで、コミュニケーション能力というような形でやっていくと、もう少し幅広くなって普通科の生徒にとっても、で、結局ディスカッションとかもやっていきますよね。授業の中で。ですからそうやって周りとのコミュニケーション能力を高めていくということでもよろしいのかなと思います。

事務局 補足です。今話題になっております語学力のところですが、こちらは第2期実施方策の基本方針の一つ目の文言、国際感覚や語学力を身に付け、国内外で活躍できるグローバル人材の育成を目指すという、こちらから、まずはこういったところを育成したいと、育てたい生徒像に盛り込めないかということで、まず始めに作成したところでございます。今いただいた御意見も踏まえ、また検討させていただければと思います。

事務局 今お答えしたところではありますが、渡辺委員からの御意見は、語学力の箇所を、もっと多様なということで、コミュニケーション能力にした方が良いのではないかという御意見だと承りました。その点に関しましては、先ほどの学科と同じようになってしまいますが、御意見として承って、しっかり検討していきたいと思っております。ありがとうございます。

栗藤委員長 はい。どうしても事務局でいろいろと検討をしてきている中で様々な表現、フレーズもあったのですが、最終的に絞り込むときに、こういう形になっています。ですので、こういった形で浮上してくる言葉があると思いますので、委員の皆様からそういったことを言っていただくと、今後の事務局の方のとりまとめがしやすくなるのかなと思います。普通科と国際に関する学科の併置校ではあるのですが、どうしても特色、特長を表すときには、専門学科である国際に関する学科の部分が色濃く出てしまいがちですよ。それは私も意識しています。もちろん普通科にも何か特長をとということなのですが、普通科というのは、いろいろなことができるというのが普通科の特長になっているので、なかなか言語化するのが難しいのかなということも一方であります。なのでどうしても、国際に関する学科の部分の言葉を詰めているところがあります。非常に良い御指摘をいただいているなと思います。これが基本方針を膨らませたコンセプトの一番の根幹になるような部分ですので、目指す学校、育てたい生徒像は、ゆくゆくはこういったものがベースとなって新しい学校のスクールポリシーにもなってくるのかなと思っていますので、しっかりと描いていくことが大事だと思っています。今のページの部分で御意見がなければ、先に進みたいと思っております。

長谷委員 生徒指導課の長谷です。よろしくお願ひします。学校に質問してもよろしいでしょうか。

栗藤委員長 私たちの方で大分丸めてしまっている部分もあって、学校固有のものであれば。

長谷委員 参考資料1の、それぞれの学校から出していただいた案があると思うのですが、今年度から委員になったので経緯を教えていただければと思うのですが、育てたい生徒像の中で、両校とも共通しているものが、自ら考え、自ら学び、自ら行動というワードがあると思うのですが、これはたまたま共通のものが出てきたのか

分からないですが、育てたい生徒像というからには、そういう生徒でないから、そこに課題意識を持っているから書いてあるということだと思のですが、それぞれの学校で事情が異なるかと思えます。ここはどういった経緯だったのか、それぞれの学校にお聞きしたいと思えます。

栗藤委員長 それぞれの教頭先生からお願いできますでしょうか。

持田（貴）副委員長 私は今年から来たわけですが、この1ヶ月間、いろいろと学校を見ている中で、やはり主体性というのは、非常に課題ではあるところだなと思っています。ただ、自ら考え、自ら学び、自ら行動するという表現自体は今の学習指導要領でうたわれているものでありますし、全体としてやっていくということでこれはどの学校でもしっかりやっていく必要があるということで、両校案ともにこの表現が入っているのは必然だと受け止めております。

栗藤委員長 岩槻北陵の教頭先生、お願いします。

前島副委員長 岩槻高校の持田教頭先生のおっしゃるとおりだと思います。

栗藤委員長 よろしいでしょうか。偶然というよりは必然であるというお話がありましたけれども、今、どの学校でも求められる生徒像なのかもしれませんね。この件は特に事務局の方はよろしいですね。

事務局 はい。

栗藤委員長 では、他の観点からお願いします。

持田（真）委員 目指す学校のところなのですが、ウの部分で、最後の部分なのですが、地域における学びの中心的役割を担う学校ということで、本校の目指す学校案の、地域の中心的な役割を担う学校と文言は少し違うかと思えます。学びの中心的役割というのは、どういうものなのかなということで、昨年度、一昨年度など、生徒会の方で、ボランティア等で地域の中心的役割を担う学校というのを目指してやってきたつもりだったのですが、今後、この学びの中心的役割を担う学校ということでどう変わっていくのかなという点をお伺いしたいと思えます。

栗藤委員長 では、事務局からお願いします。

事務局 ありがとうございます。今、持田委員がおっしゃったところは、かなり文言に大きく含まれていると思えます。私どもの方でこのような記載をさせていただいたのは、まずは岩槻高校の中で今行われている小・中学校との連携、こちらを今後もしっかり大事にしていきたいというところ。また、準備委員会でも意見が出たのですが、これからはやはり大学との連携をもっとしっかり図っていった方が良いという御意見も出てきております。そういった意味で、小・中・高・大、これをつないでいく、そういう学びの継続性のようなものを意識して、その中で岩槻地区の学校ということで、岩槻のいろいろな学校の学びが、この高校の中で昇華されていくと、少し抽象的なイメージで恐縮ですが、小・中からつながって、大学まで、あるいは就職や専門学校生徒もいるとは思いますが、そういった中心となるような、学びの中心的な役割という意味で記載させていただきました。説明が稚拙で申し訳ないのですが、以上です。

栗藤委員長 他にいかがでしょうか。それでは先に進めたいと思えます。次のパート

についてお願いします。

事務局（岩槻新校基本計画骨子（案）のうち基本姿勢、教科指導について説明）

栗藤委員長 このページでは、教育活動等の基本姿勢というところがあって、これはこの先の教科指導、生徒指導、進路指導、生徒募集、その他にも関わるような、全体を覆っていくようなお話になってくるのですが、その後、それぞれのパートごとの話になるのですが、今の説明では、全体の基本姿勢の話と教科指導の部分についての説明がありました。ここで一回切りますけれども、全体としての基本姿勢を含め、教科指導の辺りを中心に御意見をいただければと思います。

鷲田委員 先ほど、委員長からも出ていたかもしれないのでもしかしたら関わるかもしれないのですが、教科指導の基本方針のあのところですね、一番最後のところの、国際感覚や語学力を育成する、の部分の語学力については、語学力ということだけでなく、先ほど渡辺委員からもありましたけれども、コミュニケーション能力を育成するみたいな、そういったことを言うてみてはいかがかなという意見です。

栗藤委員長 ありがとうございます。事務局としても返す答えが同じかと思いますが。

事務局 そうですね。

栗藤委員長 同じ構造のお話だと思しますので、それで受け止めさせていただきます。

他、いかがでしょうか。この教科指導のところからは、具現化ということでかなり具体的な話の記載もあるのですが、極力、両校からの検討案を拾うような形で作られてはいるものの、もし、これはどうなんだろうということがありましたらお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。では前に進んで、また途中で戻るということも可能ですので、次の生徒指導についてお願いします。

事務局（岩槻新校基本計画骨子（案）のうち生徒指導について説明）

栗藤委員長 両校からの案に加えて、事務局の方で追記をした部分もあるという説明でしたが。生徒指導に関わるところで、御意見があればお願いします。それでは、先を急ぐわけではありませんが、また次のパートに進んでいきたいと思います。進路指導の説明をお願いします。

事務局（岩槻新校基本計画骨子（案）のうち進路指導について説明）

栗藤委員長 こちらも両校の検討案から生み出されたフレーズが中心ということですが、今現在、岩槻高校で取り組んでいるものであったり、また、岩槻北陵高校の方で提言していただいたものであったり、いろいろなものが入っているわけですが、進路指導について、御意見がありましたらお願いいたします。

渡辺委員 具現化のイのところをご覧ください。最後の方に、私立中堅大学から国立大学までという表現が書かれていますが、我々教員自身が、例えば、個人的に困難校だとか進学校だというのは、個人の判断というか主観なんです、学校できちんとした文の中に、中堅校と入れてしまったときに、おたくは中堅ではないですよねということが出てくると、あるいは生徒に説明したときに、いやここは中堅ではないからとなったときに、トラブルにならないかなという心配があります。この解釈についてはどうお考えでしょうか。

栗藤委員長 事務局、お願いします。

事務局 参考資料1の5ページですか、一応、岩槻高校の案の方を使わせていただいているところも実はございまして、そこを生かしております。やはり表記が良くないということであればまた検討させていただきますので、また御意見をいただければと思います。

栗藤委員長 特定の大学名であったり、それから特定の検定試験などの固有名詞を使うことは極力避けているのですが、こういった言い回しが出された案の中にあつたということで、そのままそれをベースとして入れているということでございます。

事務局 また補足なんですけれども、両校のいただいた案から記載をさせていただきました。その際、我々としても、フィルターを通して確認するようには努めていたのですが、確かにおっしゃるとおり、あえて言う必要があるのかという表現のような気はするので、また学校とも相談させていただいて、こういった表現が良いのか検討していきたいと思います。

栗藤委員長 今日、こちらに提示している案もそうなのですが、最終的には学校とそれぞれやり取りをしながら、こんな形でどうでしょうかということやってきていますので、今回のこの意見などを踏まえて、より精度の高いものにしていきたいとは思っているところです。

持田（貴）副委員長 今の件で誤解のないように言っておきますと、このようなことを具体的にはイメージしながら、進路保障をしっかりとやっていきたいということの表現ですので、こういう形の、思いが入るといふ形が有り難いなど。そういうことで岩槻高校案を理解していただければと思います。

栗藤委員長 ありがとうございます。岩槻北陵高校から何かございますか。

赤池委員 岩槻北陵高校の進路指導の担当の赤池と申します。進路指導で、そして外国語科なのでとても気になってしまったところで、半分質問、半分意見になってしまいかもしれませんが、進路指導の基本方針のイのところには、資格取得を奨励というような文言が書かれており、具現化のところには、ウ、英語に関わる各種資格というふうになっているのは、何か理由があるのかなと考えました。特に、自らの進路実現に向けた学習に結び付けるといふ言葉があるのだったら、英語にかかわらずいろいろな資格取得もあり得るだろうし、あと、科目によっても変わってくるかと思うのですが、前回、海外進学は英語圏に限らないという言葉もあったので、第2外国語をやるのであれば、そのような資格取得も体制があった方が良いでしょうし、いろいろな海外進学には、正直、英検は余り役に立たなかったり、いろいろな資格を取れるような体制があった方が良いでしょうかなと思ひまして発言させていただきました。

栗藤委員長 ありがとうございます。どうですか、事務局の方では。

事務局 貴重な御意見、ありがとうございます。今お話いただいたところですが、まず基本方針のイのところ、資格取得を奨励については岩槻北陵案を採用させていただき、記載しております。具現化のウのところですが、岩槻北陵案の6の英語検定等というところ、また、様々な意見の中から資格取得という話が出まして、事務局の方もそちらの方に頭がいつてしまつて、各種資格と言つてしまつているの

ですが、岩槻北陵の元々の案でも、検定等を始め各種資格が取得できる体制となっていますので、今いただいた意見を参考にさせていただいて、ここは検討していきたいと思っています。ありがとうございます。

栗藤委員長 赤池委員の御指摘は、本当にごもっともであるということですね。他、いかがでしょうか。それでは、先に進めたいと思います。生徒募集のところをお願いします。

事務局 (岩槻新校基本計画骨子(案)のうち生徒募集について説明)

栗藤委員長 その他の部分もごさいますが、ここではそれは除いて、その上の生徒募集のところ御意見をいただければと思います。

持田(真)委員 岩槻高校案のところ採用されているので微妙なところですが、基本方針のウの、さいたま市及び春日部市周辺等、広範囲に募集活動を行うという中の広範囲というのは、まだ少し、生徒募集活動において、今、中高連携委員の方でも話し合い等が行われているところとして、狭い範囲でも充実したものをした方がよいのではないかと話もあります。何度も何度も回って、中学校に訪問していった方が効果的ではないかという意見もあるので、あえてここは、消していただいた方がよいのかもしれないなと思いました。岩槻高校案なので申し訳ないのですが。

栗藤委員長 ありがとうございます。事務局からありますか。

事務局 貴重な御意見、ありがとうございます。今いただいた御意見も踏まえさせていただきます。ただ、私どもとしまして、新たに国際に関する学科というところで特色のある学校を設置しますので、是非、県内の様々な地域から岩槻新校に通ってほしいという思いもありますので、その辺りも含めて、検討させていただきます。

栗藤委員長 確かに言われてみると、基本方針という大きな方向性を示している割には結構具体的話になっているため、何かしら文言を改める必要があるかなと思います。生徒募集については、この春開校した第1期の児玉新校、今は児玉高校という名前になっていますが、それから飯能高校、こちらが新校として開校する際には、本当に精力的な生徒募集活動が行われております。少し紹介したことがあったかもしれませんが、是非、岩槻を中心とした地域の中学生や保護者の皆さんに、しっかりとアピールできるような取組が充実できると良いというのが、私どもの思いであります。実際に今、岩槻高校も岩槻北陵高校もそうだと思いますが、本当に懸命に取り組んでいただいている募集活動ではあると思うのですが、それを今度新校の方に向けていくということでも、是非御協力をお願いしたと思っております。

渡辺委員 具現化のイのところ、地元中学校と連携し、英語スピーチコンテストを実施すると、かなり具体的なことが書かれているのですが、地元中学校というのは、どこまでを範囲とするのか。また、スピーチコンテストの開催は、主催はどういうふうになるのか。県の方が主催するのか、あるいは中学校側なのか。どういう構想をお考えですか。実際は、何校くらいの規模でとか検討が必要かと思っております。その辺りをお伺いできればと思います。

栗藤委員長 教頭に説明してもらいましょう。これは岩槻高校案なんですよ。岩槻杯という具体的な名前も出てきていますが。どんな感じで盛り込まれているのでし

ようか。

持田（貴）副委員長 私もまだ不勉強で、しっかり分かるわけではないのですが、こういう形で、地域に根ざした国際に関する学科があるという強みということで、地域の語学力を含めた英語力を高めていけるような発信をするというイメージがあったように理解しています。

渡辺委員 実はですね、この回に示されているいろいろな議案とかあるいは学校の意見とかも、はっきり言って他の教員は全然知らないわけです。お恥ずかしい話ですけども、こんなこと書いてあったのという。正直言ってしまうと、これ以外の教員には出してはいけないのでしょうか。例えば職員室で話題にしたり、こういうふうになっているけれどもこれってどうなのかみたいなのは、出してはいけないのでしょうか。

事務局 傍聴要領で本日の会議は公開となっていますので、今日以降でしたら、可能かなと考えております。

栗藤委員長 私の方から、それぞれの校長先生にお話していますけれども、今日以降であれば、例えば職員会議や企画委員会で、こういう議論が今進んでいますということをお話をしてもらうことは構いませんと伝えています。ただ、委員の皆さんにはお願いがあるのですが、今まさに審議検討をしているものであり、最終的には教育委員会で策定するものであることから、外部の方には、余りお話をされなくて、学校内で共有してもらうというレベルでお願いしたいと思っています。この件について、事務局としては案を拾って記載しているところがあるので、もし学校の取組として難しいとかいろいろ問題があるようでしたらご相談させていただきたいと思っています。具体的に今現在取り組まれている話とは違う、新たな新機軸のものなのですね、分かりました。その辺はまた学校と練っていきたいと思います。残りその他がありますので、そこまで行ってしまおうと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局 （岩槻新校基本計画骨子（案）のうちその他について説明）

栗藤委員長 その他ということで、特に第1期の検討委員会でも大きな話題になっていましたが、外国にルーツがある生徒がたくさん在籍していて、その日本語指導というのにかなり苦労されているというお話がありましたけれども、それをなんとかということで、ここにはそういった文言が記載されています。教育課程に組み込むことは可能になりましたが、ではそれをという先のところは、まだ本県では具体の例の取組がございませんので、担当課と調整しながら進めていくことになるかと思っています。他にも、イ、ウと三項目ありますけれども、この部分で御意見がありましたらお願いします。

持田（真）委員 アのところなんですけれども、外国につながるというところ、全体的には案には賛成なんですけれども、表現だけ、変えた方が良いのではないかと思います。外国につながる生徒という表現が、どの生徒でも外国につながるかなと思いますので、表現は難しいですが、少し乱暴な表現かなと若干思いました。

栗藤委員長 事務局から解説をお願いします。

事務局 ありがとうございます。もともとアに外国籍という言葉がございました。こちらをどうにか変えたいということで、当初、私もどもでは、外国にルーツを持つという表記もしておりました。ただそれも、果たして正しいのかということで、いろいろ調べていたところ、現在、割と公的には、外国につながるという表現が用いられているようです。私もまだまだ勉強不足のところはあるのですが、いろいろな表現を調べていった結果、ここで記載するには、この外国につながる生徒という表現がよろしいだろうということで、原案とさせていただきます。

栗藤委員長 言葉遣いについては私もも神経を使いながらやっているつもりではあるのですが、それがビビっとくるものやこないものやいろいろありますので、率直なところで御意見をいただくと有り難いと思っています。個人的に言わせていただくと、私もつながるという表現はビビッと来ないですね。まだ、外国にルーツがあるといった方が分かる気がするのですが。最近、そのつながるという言い回しが公的なものには増えてきたため、このような言葉を選んでいきます。他、いかがでしょうか。ウにある、共生社会の実現に向けた学びの機会を設定という辺りは、岩槻はるかぜ特別支援学校を念頭に置いてのことかと思います。具体的な学校名を載せるというのははばかれるので、入れていなかったということで、一番近い特別支援学校でもありますし、そういった機会を設定したいというのが、ここにあるかと思っています。ではよろしいでしょうか。ひと通り説明させていただきましたが、前に戻っても、少しだけまだお時間がありますから、何かありましたら、この部分のここはということで御意見をいただければと思います。では事務局からお願いします。

事務局 学科名についていろいろ意見が出たのですが、もし、岩槻北陵高校の学科名の印象というか、聞かせていただければと嬉しいなと思っています。もし何かお考えがありましたら。岩槻高校からは大分、国際教養科という意見をいただきましたが。

栗藤委員長 どうでしょうか。何かお考えがある方がいらっしゃいましたら。

赤池委員 先ほど言っていたのと、私も英語なので、本当に一緒に、国際を探究するってどういうことだろうとか、あと、英語にするとどうするんだろうというのは、私も考えまして、海外に開かれたとか、中学生に分かりやすいようにという名前を考えると、国際探究というのは、ちょっと分かりにくいかなというのと、あといろいろな資料を出すときに、海外への進学も考えたときというのも考えると、国際探究をどういう英語にするのかなというのがすごく気になるというか。分かりにくい、なにそれと海外の方に言われてしまいそうな表現にしかできなさそうだと考えています。

栗藤委員長 ありがとうございます。こういった御意見を踏まえて、しっかり検討していきたいと思っています。また、準備委員会でも、委員の方から御意見をいただいて、それを踏まえて検討させていただこうと思っています。英語の先生を前に私から言うのもなんですが、探究という英語は、国際IBなんかをやっている学校の例を挙げると、Inquiry、Inquireという言葉が多いような気がするのですが、どう

为什么呢。いろいろな単語を渡辺委員から出していただいています、どの辺が一番探究に近いのでしょうか。

赤池委員 Inquireだと少し変な感じがします。探究は恐らく、いろいろ調べて議論したり、考えたりという感じがなと思うのですが、Inquireは余りそういうイメージがないというか、本当に直訳すると先ほどあったように、Researchとなるかと思いますが、Researchだと本当に調べて終わりなので、全くその感じが出ないし、知るはもちろんだけれども、話し合ったり、自分の考えをしっかりとったり、それを自分の将来に結び付けたりと考えると、なかなか探究を良い英語にするのは難しいと思います。

栗藤委員長 ありがとうございます。IBの学校を視察したときに、Inquiry Timeという時間帯があって、生徒が探究活動に近いような、ものを調べて発表したりという時間だったんですね。だいたいこういう言い方をするのかなと思っていたのですが、ちょっとこちらも研究と言いますか、英語の専門家がいないので、勉強したいと思います。ありがとうございました。

赤池委員 確かに求めるという意味はあります。だから、確かに探究かもしれないです。

栗藤委員長 ありがとうございました。予定したお時間があと15分くらいですが、残った時間で、是非言っておきたいということがありましたらお願いします。それではよろしいでしょうか。意見も出尽くした感もありますので、冒頭にもお話をさせていただいた通り、同じものを使って準備委員会で、準備委員になっていらっしゃる皆さんからも御意見を頂戴しながら、次の第3回の基本計画検討委員会につなげていきたいと思います。以上で本日の協議は終了させていただきたいと思います。御協力いただきましてありがとうございました。